



学校だより 神橋

令和3年10月4日
横浜市立神橋小学校
校長 判治 珠美

10月号

子どもの感じ方

緊急事態宣言の解除により分散登校が終わり、一斉登校が再開されました。夏休み明けからの分散登校でなかなか会えなかった友達ともようやく会い、クラスみんなで活動できることを、楽しみにしているお子さんも多かったことでしょう。

分散登校中の家庭学習では、保護者のみなさまにいろいろご協力いただきまして、ありがとうございました。学校での学習では、子どもたちの人数が少ないということを生かし、学習の様子をより丁寧に見取ったり、話を聞いたりすることに努めてまいりました。理科や図工、家庭科の裁縫等の実技の学習では、より安全面に気を付け、支援することができました。また、タブレットの活用も進めることができました。

これからまた、安全・安心な学校生活が送れますよう、感染予防に努めてまいります。引き続き、ご家庭のご協力をお願い申し上げます。

分散登校中に、西門への通路の桜の木を5本切りました。春には見事な花を咲かせる立派な木だったのですが、樹齢50年以上で中がすでに痛み、いつ倒れてもおかしくない状態だということがわかったため、安全のためにやむなく切ることにいたしました。



1・3・5年生の教室の窓の外なので、伐採の作業が見えたり、音も大きかったりして、子どもたちの学習に支障はないかな、と思い見に行くと、5年生のあるクラスは保健の授業中でした。ちょうど、窓の外で作業員の方がチェーンソーで木を切っています。すごい音です！これは気も散るし、うるさくて困るだろうな、と思いました。そこで、木を切っている理由を説明すると、子どもたちから出た言葉は、「切られてかわいそうだね。」「でもしょうがないんだね。」「こうやって切るんだ。」「切るの大変そう。」「すごいね。」「がんばって。」でした。びっくりしました！私は、子どもたちの安全のため、切ってもらってよかった、としか思っていまらなかったのですが、子どもたちは、木や作業員の方の気持ちになったり、寄り添ったりして考えていたのです。子どもたちってこんな風に捉えるんだなあと、なんだか忘れ物を届けてもらったような気持ちになりました。改めて子どもたちの感性を大事にしたいし、忘れないようにしたい、と思いました。

その保健の授業は、「心の成長」で、心にはいろいろな感情があることや、成長に伴い、感情を抑えられるようになっていたり、理解力や思考力が育ったりしていく、ということを感じながら学んでいたと思います。

通路は、ちょっと殺風景でさみしくなっていました。また子どもたちの豊かな発想で、明るくすることができるかもしれないと思っています。